

《基礎助産学》

授業科目名	助産学概論	単位	1 単位
担当講師	大石 有香 助産師臨床経験：10 年以上 教育経験：10 年以上	時間数	30 時間
		時期	4 月～9 月
	倉本 孝子 助産師臨床経験：10 年以上 教育経験：10 年以上	授業形式	講義・演習
学習目標	助産師のコア・コンピテンシーを基盤に助産師の役割について学び、助産とは何かを考える基礎とする。		

回数/時間・講師	授業内容
大石 (26 時間)	1) 助産の概念 (1) 助産とは (2) 助産師の定義 (3) 助産の対象 (4) 助産の将来 (5) 助産学を支える理論 (6) 助産に関する概念 ・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ ・ジェンダー ・女性を中心としたケア ・家族を中心としたケア 2) 助産師の役割と責務 (1) 保助看法に基づく業務・義務 (2) 医療法に基づく業務 (3) コア・コンピテンシー (4) 助産師の声明 3) 家族と社会 (1) 家族の機能と役割 (2) 家族の変化 (3) 母親と社会 (4) 父親と社会 (5) 子どもと社会 4) 家族と法 (1) 夫婦と法 (2) 親子と法 (3) 養子縁組 5) 助産師と倫理 (1) 助産師の倫理綱領 (2) 女性の意思決定支援 6) 助産の歴史と文化 (1) 助産の変遷 (2) 助産師の変遷 7) 助産師に関わる法規 (1) 助産師の業務に関わる関係法規 (2) 届出に関わる関係法規 (3) 女性の支援に関わる関係法規 (4) 子どもの支援に関わる関係法規 8) 母子保健の動向と施策 (1) 母子保健に関する統計 (2) 女性に関する統計 (3) 母子保健に関わる制度 (4) 主な母子保健施策 9) 助産師を取り巻く環境と今後の課題 (1) 助産師の役割とチーム医療 (2) 助産師としての質を高めるために
倉本 (4 時間)	10) 助産師と教育 (1) 日本の助産師教育 (2) 日本の助産師の継続教育と卒後教育
評価方法	筆記試験 100 点 (大石 85 点、倉本 15 点)
テキスト	助産学講座 1 助産学概論 助産学講座 4 母子の心理・社会学 助産学講座 5 助産診断・技術学 I 助産学講座 9 地域母子保健 国際母子保健 助産師業務要覧 [I 基礎編] [II 実践編] 助産師の声明/コア・コンピテンシー2021 助産業務ガイドライン 2024 産婦人科診療ガイドライン産科編 2026

《基礎助産学》

授業科目名	助産学研究	単位	1 単位
担当講師	高 知恵 助産師臨床経験：10 年以上 教育経験：10 年以上	時間数	30 時間
		時期	5 月～2027 年 1 月
	伊藤多恵子 助産師臨床経験：10 年以上 教育経験：10 年以上	授業形式	講義・演習
学習目標	研究の基礎理論を学び、理論に基づいて研究の実際に取り組むことで自らの助産ケアを考察し、助産学を探究する姿勢を身につける。		

回数/時間・講師	授業内容
高 (4 時間)	1) 助産学研究とは (1) 助産学研究の意義と目的 (2) 助産学研究とその種類 (3) 助産学における研究と実践
(4 時間)	2) 助産学研究と倫理 3) 研究利用と EBM の視点
(4 時間)	4) 事例研究の進め方 (1) 文献検索の基本ステップ (2) 研究目的の明確化 (3) 理論を用いた考察 ・母親役割獲得 ・母子相互作用 ・セルフケア ・愛着形成 (アタッチメント) ・家族システム ・行動変容ステージ など
(4 時間)	5) 助産学研究の発表
伊藤 (18 時間)	6) 助産学研究の実際 (事例研究) (1) 対象の選択 (2) データ収集 (3) 研究における倫理的配慮 (4) 予備調査の実施 (5) データ分析・解釈と研究の結果 (6) 中間発表 (7) 抄録・論文作成 (8) 研究の報告、公表 最終発表
評価方法	研究論文・発表 100 点 (高 40 点、伊藤 60 点)
テキスト	助産学講座 1 助産学概論 助産師の声明/コアコンピテンシー2021

《基礎助産学》

授業科目名	生命倫理学	単位	1 単位
担当講師	久世 宏美 助産師臨床経験：10 年以上	時間数	15 時間
		時期	8 月～12 月
		授業形式	講義・演習
学習目標	性と生殖にかかわる助産師の専門性と役割から、倫理的判断を行うための基礎知識・技術、求められる姿勢を理解する。		

回数/時間・講師	授業内容
久世 (15 時間)	1) 助産師がかかわる生命倫理学上の課題 <ul style="list-style-type: none"> ・人工妊娠中絶と母体保護法 ・出生前診断と母体保護法 2) ケーススタディで学ぶ意思決定支援 生命倫理演習（周産期倫理カンファレンス） <ul style="list-style-type: none"> ・自律原則 ・無加害の原則 ・善の原則（与益の原則） ・正義の原則 3) 出生前診断を受ける妊婦・家族へのケア <ol style="list-style-type: none"> (1) 遺伝カウンセリング <ul style="list-style-type: none"> ・遺伝カウンセリングの定義 ・遺伝カウンセリングの理念と特質 ・遺伝カウンセリングの実際 (2) 出生前診断をめぐる助産ケア
評価方法	筆記試験 100 点
テキスト	助産学講座 1 助産学概論 助産学講座 2 母子の基礎科学 助産師業務要覧 [I 基礎編] 助産師基礎教育テキスト 7 ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア 助産師の声明/コア・コンピテンシー2021

《基礎助産学》

授業科目名	女性の健康科学	単位	1 単位
担当講師	成田 萌 医師臨床経験：10 年以上	時間数	20 時間
	四本 由郁 医師臨床経験：10 年以上	時期	5 月～9 月
	村越 誉 医師臨床経験：10 年以上	授業形式	講義
江口 友希世 管理栄養士臨床経験：10 年以上			
学習目標	女性のリプロダクションにおける身体の構造と機能、生殖に関連した健康問題について理解する。 周産期の遺伝医療の基礎から、出生前診断に関わる倫理的課題について理解する。 女性の持つ力を最大限発揮するための栄養に関する基礎知識と健康教育の視点を理解する。		

回数/時間・講師	授業内容
成田 (6 時間)	1) 女性生殖器と乳房の疾患 (1) 子宮と付属器の疾患：子宮腫瘍、卵巣腫瘍、子宮内膜症 (2) 乳房疾患：乳がん、乳腺症 (3) 検査法：基本的な診察、子宮頸部細胞診、膣分泌物、超音波断層法、マンモグラフィー 2) 婦人科の炎症性疾患 (1) 尿道炎、膀胱炎、腎盂腎炎 (2) 子宮頸管炎、子宮内膜炎、筋層炎 (3) 子宮内黄体ホルモン放出システム (IUS) (4) 膣周囲炎、外陰炎、細菌性膣炎、骨盤腹膜炎 3) 女性のライフサイクルに特有な健康課題 (1) 思春期・成熟期：性器の奇形・異常、月経異常、体重減少性無月経、月経前症候群、多嚢胞性卵巣症候群 (2) 更年期：閉経、更年期障害、脂質異常症、虚血性心疾患 (3) 老年期：萎縮性膣炎、排尿障害、骨盤臓器脱、骨粗鬆症
四本 (4 時間)	1) 遺伝医学の重要性 2) 染色体の異常による疾患とその検査 3) 遺伝子と遺伝子解析法 4) 遺伝性疾患
村越 (4 時間)	5) 出生前診断 (1) 出生前診断の概念・目的・倫理 (2) 出生前診断におけるガイドライン・見解 (3) 検査制度 (4) 非確定的検査 (5) 確定的検査 (6) 出生前診断における遺伝カウンセリングの実際 6) 生殖補助医療 (1) 体外受精とその関連技術 (2) 凍結保存 (3) 着床前遺伝子診断
江口 (6 時間)	1) 女性の健康と栄養 (1) 食生活指針、食生活の習慣 (2) 食事摂取基準 (3) 栄養状態の評価法 (4) 有害物質の摂取 2) 母体の健康と胎児の発育 (1) 妊婦の食事摂取基準 (2) ビタミン・鉄・葉酸・カルシウムの過不足 (3) 母体低栄養 (4) 栄養過剰摂取 (5) 非妊時の体格 (やせ、肥満) (6) 嗜好 (喫煙、飲酒、アルコール) (7) 成人病胎児期発症説 (DOHaD) (8) 妊娠糖尿病、糖尿病合併妊娠、妊娠高血圧症候群 3) 授乳婦と乳幼児の栄養 (1) 授乳期の食事と母乳分泌 (2) 乳児期の栄養 (3) 乳汁栄養 (4) 離乳期の栄養 (5) 幼児期の食と栄養 (6) 乳幼児期の病態栄養
評価方法	筆記試験 100 点 (成田 30 点、四本 20 点、村越 20 点、江口 30 点)
テキスト	助産学講座 2 母子の基礎科学 助産学講座 3 母子の健康科学

	<p>(1) 分娩に関する定義 (2) 分娩の三要素 (3) 分娩の経過</p> <p>8) 分娩期の異常・偶発疾患</p> <p>(1) 娩出力の異常・遷延分娩 (2) 産道の異常</p> <p>(3) 胎位・胎勢、進入・回旋の異常 (4) 胎児機能不全</p> <p>(5) 多胎 (6) 胎児付属物の異常</p> <p>(7) 前期破水 (8) 臍帯下垂・脱出</p> <p>(9) 子宮破裂 (10) 子宮内反症</p> <p>(11) 羊水塞栓 (12) 産科 DIC</p> <p>9) 産科手術および産科的医療処置</p> <p>(1) 産科麻酔（硬膜外麻酔） (2) 腹式帝王切開術</p> <p>(3) 分娩誘発・促進 (4) 吸引、鉗子遂娩術</p> <p>(5) 肩甲難産 (6) 骨盤位牽出術</p> <p>(7) 子宮摘出術 (8) 子宮腔内タンポナーデ</p> <p>(9) 出血性ショック時の処置、母体の蘇生、AED</p>
苔原 (8 時間)	<p>10) 産褥の生理</p> <p>11) 産褥期の異常・偶発疾患</p> <p>(1) 産褥早期出血・晩期出血 (2) 子宮復古不全</p> <p>(3) 外陰血腫 (4) 血栓性静脈炎</p> <p>(5) 深部静脈血栓症・肺塞栓症 (6) 産褥熱・感染症</p> <p>(7) 産後後遺症 (HDP・GDM)</p> <p>12) 母子感染症</p> <p>(1) サイトメガロウイルス (2) ヒトパルボウイルス B19</p> <p>(3) B 型肝炎、C 型肝炎ウイルス (4) HIV、HTLV - 1</p> <p>(5) 単純ヘルペスウイルス (6) 水痘ウイルス</p> <p>(7) クラミジア (8) 梅毒トレポネーマ</p> <p>(9) トキソプラズマ (10) B 群溶連菌</p> <p>(11) 風疹 (12) 麻疹</p> <p>(13) 新興・再興感染症</p>
平塚 (2 時間)	13) 無痛分娩の管理と実際
評価方法	筆記試験 100 点 (岡田 15 点、北井 30 点、北 30 点、苔原 25 点)
テキスト	<p>助産学講座 6・7 助産診断・技術学Ⅱ [1] 妊娠期 [2] 分娩期・産褥期</p> <p>助産師基礎教育テキスト 4 妊娠期の診断とケア</p> <p>助産師基礎教育テキスト 5 分娩期の診断とケア</p> <p>助産師基礎教育テキスト 7 ハイリスク妊産婦・新生児へのケア</p> <p>産婦人科診療ガイドライン産科編 2026</p> <p>最新産科学 (正常編)</p> <p>最新産科学 (異常編)</p>

《基礎助産学》

授業科目名	新生児・乳幼児の生理と病態	単位	1 単位
担当講師	池上 等 医師臨床経験：10 年以上	時間数	20 時間
	四本 由郁 医師臨床経験：10 年以上	時期	4 月～9 月
	津川 二郎 医師臨床経験：10 年以上	授業形式	講義・演習
学習目標	新生児・乳幼児の適応生理とおこりうる異常を理解し、新生児・乳幼児の健康状態をアセスメントするための基礎知識を習得する。		

回数/時間・講師	授業内容
池上 (10 時間)	<p>1) 新生児の特徴</p> <p>(1) 身体的、生理的特徴：身体的発育、成熟徴候、呼吸器系、循環器系、体温調節、消化器系、内分泌・代謝系、泌尿器系、神経・運動器系、免疫系、行動・感覚器系</p> <p>(2) 新生児の正常からの逸脱および異常な症状： 呼吸障害、チアノーゼ、嘔吐、腹部膨満、吐血・下血、けいれん、麻痺、 発熱、低体温、黄疸、頭血腫、帽状腱膜下出血、心雑音、なんとなく元気がない</p> <p>2) 新生児の疾患・検査 新生児低血糖症、新生児一過性多呼吸 (TTN)、胎便吸引症候群、気胸、縦隔気腫、 高ビリルビン血症、外表奇形、分娩外傷、感染症、先天異常・染色体異常症 新生児聴覚スクリーニング、先天性代謝異常検査</p> <p>3) 低出生体重児・早産児の特徴 外観、呼吸器系、循環器系、体温調節、消化器系、代謝系、免疫系</p> <p>4) 低出生体重児・早産児の病態 呼吸窮迫症候群、未熟児動脈管開存症、未熟児網膜症、脳室周囲白質軟化症、 核黄疸、壊死性腸炎、敗血症、未熟児貧血、低血糖症、低カルシウム血症</p> <p>5) ハイリスク児の経過、予後 低出生体重児・早産児の予後、フォローアップ；成長・発達の特徴、後遺症</p>
津川 (2 時間)	<p>6) 新生児の外科疾患と治療 外科的手術を受けた子の予後、フォローアップ；成長・発達の特徴、後遺症</p>
四本 (8 時間)	<p>7) 乳幼児の特徴</p> <p>(1) 身体的・生理的特徴 (2) 心理・社会的特徴と行動上の特徴：精神発達、生活習慣・行動</p> <p>8) 乳幼児の健康診査 (1) 発達診断学的診察、視聴覚検査 (2) 発育の評価：身体発育曲線、身長体重曲線 (3) 1 か月児、4 か月児、1 歳 6 か月児、3 歳児のチェックポイントと評価</p> <p>9) 乳幼児の疾患 (1) 乳幼児によくみられる感染症：突発性発疹、百日咳、水痘、流行性耳下腺炎、 RS ウィルス感染症、カンジダ症、鷲口瘡、ブドウ球菌性熱傷用皮膚症候群 (SSSS) 乳幼児下痢症 (ロタウィルス、ノロウィルス)</p> <p>(2) 乳幼児突然死症候群 (SIDS)</p> <p>(3) 乳幼児の発達上の問題 染色体異常、発達障害 (神経発達症)、被虐待児症候群</p> <p>(4) 出生後・治療後に障害をもつ子どもについて 脳性麻痺、気道狭窄/呼吸機能障害、嚥下障害、重症心身障害児、医療的ケア児</p> <p>10) 乳幼児の疾病予防 予防接種</p>
評価方法	筆記試験 100 点 (池上 60 点、四本 40 点)
テキスト	助産学講座 8 助産診断・技術学Ⅱ [3] 新生児期・乳幼児期 助産師基礎教育テキスト 6 新生児期・乳幼児期のケア 助産師基礎教育テキスト 7 ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア、新生児学入門

《助産診断・技術学》

授業科目名	助産診断技術学総論	単位	1 単位
担当講師	伊藤 多恵子 助産師臨床経験・教育経験：10 年以上 片山 由美 助産師臨床経験：10 年以上	時間数	45 時間
		時期	4 月～9 月
		授業形式	講義・演習
学習目標	助産診断の基礎および、妊娠経過から分娩、産褥経過を予測し、予防的観点から日常生活上のセルフケア能力を促す継続的支援に向けた助産過程の展開プロセスを理解する。 助産診断・助産技術に必要なフィジカルアセスメント技術と安全・安楽なケア技術の基礎知識、および基本技術を習得する。		

回数/時間・講師	授業内容
伊藤 (2 時間)	1) 助産診断・技術学の概要 (1) 助産過程・助産診断学 ・助産技術学の考え方 ・診断の目的と意義 ・助産診断の範囲 ・助産診断類型 ・妊娠期の診断とケア ・分娩期の診断とケア ・産褥期の診断とケア ・女性のケア ・出産・育児期の家族ケア ・地域母子保健におけるケア (2) 実践過程、ケアの継続性 ・情報収集 ・助産診断 ・計画立案 ・実施 ・評価 ・記録
(14 時間)	2) 正常経過の助産過程の展開・実践と評価過程の記録 (1) 妊娠期の助産診断とケア ・妊娠初期・中期・後期の助産診断、実施、評価、記録 ・継続ケアにおける長期目標とケア計画 ・バースプラン立案、セルフケア支援、出産準備に向けたケア、親準備に向けたケア実践と評価
(2 時間)	(2) 分娩期の助産診断とケア ・分娩開始時・分娩第 1 期・第 2 期・第 3 期・第 4 期の助産診断、評価、記録 ・妊娠経過とバースプランに合わせたケア計画
(6 時間)	(3) 産褥期・新生児期の助産診断とケア ・産褥早期・退院前の褥婦、新生児期の助産診断、実施、評価、記録 ・産後健診の助産診断、実施、評価、記録 ・セルフケア支援、育児技術獲得に向けたケア実践と評価
(4 時間)	(4) 乳幼児期の助産診断とケア ・生後 4 か月までの身体所見、発育の評価 ・乳幼児の発達、社会性を促進する支援 ・乳幼児の起こりやすい事故予防と対策、疾病予防への支援、 乳幼児の家族へのケア実践と評価

(9 時間)	3) 妊産褥婦、新生児の診察技術・ケア技術
(2 時間)	(1) 妊産婦の診察技術 <ul style="list-style-type: none"> ・触診：レオポルド触診法、頤部触診法、ザイツ法、後会陰触診法 ・聴診：胎児心拍聴取（ドプラ法、トラウベ、分娩監視装置） ・計測診：腹囲・子宮底長計測、骨盤外計測 ・内診：骨産道、軟産道、回旋 ・問診 ・視診
(4 時間)	(2) 褥婦の診察技術・ケア技術 <ul style="list-style-type: none"> ・触診：乳房、子宮復古他 ・計測診：子宮底高計測 ・問診 ・視診 ・子宮復古促進のケア：悪露交換、導尿、輪状マッサージ
(2 時間)	(3) 新生児の診察技術・ケア技術 <ul style="list-style-type: none"> ・視診、触診：頭部～背部、四肢 ・計測診：体重、身長、頭囲、胸囲 ・おむつ交換、寝衣交換、泡沫浴
片山 (2 時間)	(4) 妊産婦のケア技術 <ul style="list-style-type: none"> ・呼吸法 ・産痛緩和法
評価方法	筆記試験 50 点（伊藤） 、実技試験 50 点（伊藤）
テキスト	助産学講座 3 母子の健康科学 助産学講座 5 助産診断・技術学 1 助産学講座 6 助産診断・技術学 II [1] 妊娠期 助産学講座 7 助産診断・技術学 II [2] 分娩期・産褥期 助産師基礎教育テキスト 4 妊娠期の診断とケア 助産師基礎教育テキスト 5 分娩期の診断とケア 助産師基礎教育テキスト 6 産褥期のケア／新生児期・乳幼児期のケア 助産師基礎教育テキスト 7 ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア 実践マタニティ診断 今日の助産 写真でわかる助産技術アドバンス

《助産診断・技術学》

授業科目名	助産診断技術学 I	単位	1 単位
担当講師	伊藤 多恵子 助産師臨床経験・教育経験：10 年以上 橋本 真理 助産師臨床経験：10 年以上	時間数	30 時間
		時期	4 月～9 月
		授業形式	講義・演習
学習目標	妊娠期の助産診断過程に基づき、妊婦と家族の健康状態、日常生活をアセスメント・助産診断し、妊婦のセルフケア能力向上と出産育児準備・親役割獲得に向けたケアができるための基礎的能力を養う。		

回数/時間・講師	授業内容
伊藤 (20 時間)	<p>1) 妊娠期の助産診断</p> <p>(1) 妊娠経過の診断 (2) 胎児の発育・健康状態の診断</p> <p>(3) 日常生活行動の診断 (4) 妊婦と家族の心理・社会的側面の診断</p> <p>2) 妊娠経過に伴うフィジカルアセスメントとケア</p> <p>(1) 妊娠の診断</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問診（医療面接、情報収集、インフォームドコンセント）と診察 妊娠の徴候、内診所見、各種検査、分娩予定日の決定 ・医療面接（初期妊娠リスクスコア、既往歴・家族歴、妊娠分娩歴、産科病歴、合併症） <p>(2) 妊娠初期（妊娠 13 週まで）のアセスメントと助産ケア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・妊娠経過の診断：身体所見、体格、体重増加量、内診所見、各種検査 ・心理社会面の診断：年齢、婚姻状態、経済状態、妊娠の受容、家族関係、文化的背景 ・妊娠期の生活適応への支援：生活習慣、社会資源の活用、定期健診受診の推奨と産院探し <p>(3) 妊娠中期（妊娠 14～27 週）のアセスメントと助産ケア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・妊娠経過の診断：身体所見、体重増加、マイナートラブル、血圧・尿検査 ・胎児発育の診断：母体栄養と胎児の発育 ・日常生活行動の診断、心理社会面の診断：日常生活行動の変化、問題への対処行動 ・妊娠期の生活適応への支援：出産・育児準備、母乳哺育に向けた準備、家族の調整 <p>(4) 妊娠後期（妊娠 28 週以降）のアセスメントと助産ケア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・妊娠経過の診断：生理的变化の評価、異常の早期発見 ・日常生活行動の診断：出産・育児の心身の準備状況、リスクの予測と対処法 ・就労女性への支援：労働時間、休業 <p>(5) 妊娠後期（妊娠 36 週以降）のアセスメントと助産ケア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・妊娠経過の診断：経膈分娩の可否、分娩経過の予測・心理・社会的支援：出産に対する不安
橋本 (10 時間)	<p>3) 助産院における妊婦への継続ケア</p> <p>(1) 妊娠各期の健康診査</p> <p>(2) 妊婦健康診査における妊婦への問診の実際（演習）</p> <p>(3) 安全、安楽な出産にむけての心身への準備</p> <p>(4) 妊娠期からの育児準備（親役割支援・気持ち）</p> <p>(5) 新しい家族を迎える助産師の支援</p>
評価方法	臨床能力試験 70 点（伊藤）、筆記試験 30 点（橋本）
テキスト	助産学講座 6 助産診断・技術学Ⅱ [1] 妊娠期 助産師基礎教育テキスト 4 妊娠期の診断とケア 実践マタニティ診断 今日の助産 産婦人科診療ガイドライン産科編 2026 最新産科学（正常編）（異常編）

《助産診断・技術学》

授業科目名	助産診断技術学Ⅱ	単位	1 単位
担当講師	武田 麻美 助産師臨床経験・教育経験：10 年以上	時間数	30 時間
		時期	4 月～9 月
		授業形式	講義・演習
学習目標	分娩期の助産診断過程に基づき、分娩開始、分娩経過、健康状態、分娩予測をアセスメント・助産診断し、分娩進行に伴う産婦と家族のケアができるための基礎的能力を養う。		

回数/時間・講師	授業内容
武田 (2 時間)	1) 分娩の基礎 (1) 分娩に関する定義 (2) 分娩の三要素 (3) 分娩の経過
(6 時間)	2) 分娩期の助産診断 (1) 分娩開始の予知の診断：自覚症状、子宮頸管成熟度、子宮収縮（前駆陣痛） (2) 分娩開始の診断：分娩陣痛、子宮頸管の変化・子宮口の開大 (3) 破水の診断：自覚症状、検査法、羊水の性状 (4) 分娩経過の診断：陣痛、腹圧、骨盤の大きさや形態、子宮頸管、膣・会陰の伸展性、胎児の大きさ、胎位・胎向・胎勢・回旋、胎児の下降度、胎児と骨盤の関係、フリードマン頸管開大曲線、分娩所要時間 分娩時期－分娩第 1 期潜伏期、活動期（加速期・最大傾斜期・減速期） (5) 胎児の健康状態の診断：胎児発育評価、胎児心拍数陣痛図、羊水の量・性状 (6) 産婦の日常生活活動の診断：食事と栄養、排泄、休息と睡眠、活動 (7) 産婦と家族の心理・社会的側面の診断：産婦の情動、産痛への対処行動、家族支援 (8) 分娩の予測：経膣分娩の可否の判断、胎児推定体重・児娩出時刻予測 分娩経過の予測－分娩進行、ハイリスク・異常分娩予測のアセスメント
(2 時間)	3) 正常な経過にある産婦への支援 (1) 産婦ケアの基本 産婦の意思・主体性の尊重、家族中心的なケア
(20 時間)	4) 分娩経過に伴うフィジカルアセスメントとケア (1) 産婦のフィジカルアセスメント技術 問診：医療面接、情報収集、インフォームドコンセント 外診：視診、触診、計測診（出血量、胎盤の計測含む）、聴診 内診：子宮口、胎児先進部、卵膜、膣壁、会陰、膣分泌物 (2) 分娩第 1 期の助産ケア 入院前（電話連絡時）、入院の判断とケア 基本的欲求の充足（食事・排泄・活動・睡眠・清潔）ケアの判断と実際 分娩進行促進ケア実施の判断と実際、内診実施時期の判断 産婦の状態に応じた産痛緩和ケア（呼吸法、リラクゼーション）の実際、家族へのケア (3) 分娩第 2 期、分娩第 3 期の助産ケア 分娩準備の判断とケア（呼吸法、努責の誘導）、胎盤娩出までの観察判断とケア (4) 分娩第 4 期の助産ケア 産婦・新生児へのケア（復古促進・胎外生活適応・愛着形成）の判断と実際 分娩想起、家族へのケア
評価方法	臨床能力試験 100 点
テキスト	助産学講座 7 助産診断・技術学Ⅱ [2] 分娩期・産褥期 助産師基礎教育テキスト 5 分娩期の診断とケア 最新産科学（正常編）（異常編） 胎児心拍数モニタリング講座 実践マタニティ診断 今日の助産 助産業務ガイドライン 2024 産婦人科診療ガイドライン産科編 2026

《助産診断・技術学》

授業科目名	助産診断技術学Ⅲ	単位	1 単位
担当講師	伊藤 多恵子 助産師臨床経験・教育経験：10 年以上	時間数	20 時間
		時期	4 月～9 月
		授業形式	講義・演習
学習目標	産褥期・新生児期の助産診断過程に基づき、褥婦・新生児の健康状態、日常生活をアセスメント・助産診断し、健康生活に向けたケアができるための基礎的能力を養う。		

回数/時間・講師	授業内容
伊藤 (12 時間)	<p>1) 産褥期の助産診断</p> <p>(1) 産褥期の経過診断 (2) 日常生活行動の診断</p> <p>(3) 褥婦の家族の心理・社会的側面の診断 (4) 育児能力の診断</p> <p>(5) 母乳育児に関する診断</p> <p>2) 産褥経過に伴うフィジカルアセスメントとケア</p> <p>(1) 産褥早期の母児のアセスメントとケア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産褥経過の診断：全身の復古、生殖器の復古、検査結果 ・日常生活行動の診断：栄養、睡眠、休息、排泄、清潔行動 ・産褥期の生活適応へのケア：栄養、日常生活の行動拡大、不快症状の緩和 ・褥婦への心理社会的ケア：出産体験の振り返り（パースレビュー） <p>(2) 退院を控えた母児のアセスメントとケア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産褥経過の診断：退院の可否 ・褥婦と家族の心理・社会的側面の診断：親役割の獲得、居住地域の育児環境 ・褥婦と家族への心理社会的ケア：育児環境の調整、子どもがいる生活への調整 <p>(3) 産後 1 か月の母児のアセスメントとケア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産褥経過の診断・育児能力の診断：愛着形成、育児技術の習得、育児不安 ・育児行動獲得へのケア：子どもがいる生活への調整、家族関係の調整
(8 時間)	<p>3) 新生児期の助産診断</p> <p>(1) 新生児のフィジカルアセスメント</p> <p>呼吸の確立、全身の状態、バイタルサイン、身体計測値、成熟度判定</p> <p>(2) 胎外環境への適応と成長・成熟の診断</p> <p>分娩侵襲からの回復、哺乳、消化と排泄、生理的体重減少</p> <p>4) 新生児のケア</p> <p>(1) 出生後 24 時間以内のケア</p> <p>胎外環境への適応促進(新生児蘇生)、保温、母子接触、感染予防、安全確保</p> <p>(2) 出生後 24 時間以降のケア</p> <p>栄養と授乳、保温と環境温度調整、清潔ケア、感染予防、母子同室中のケア</p>
評価方法	臨床能力試験 100 点
テキスト	<p>助産学講座 7 助産診断・技術学Ⅱ [2] 分娩期・産褥期</p> <p>助産学講座 8 助産診断・技術学Ⅱ [3] 新生児期・乳幼児期</p> <p>助産師基礎教育テキスト 6 産褥期のケア／新生児期・乳幼児期のケア</p> <p>助産師基礎教育テキスト 7 ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア</p> <p>今日の助産</p> <p>実践マタニティ診断</p> <p>助産業務ガイドライン 2024 産婦人科診療ガイドライン産科編 2026</p>

《助産診断・技術学》

授業科目名	助産診断技術学Ⅳ	単位	1 単位
担当講師	菅家 由紀子 助産師臨床経験：10 年以上	時間数	20 時間
	福岡 泰教 医師臨床経験：10 年以上	時期	5 月～9 月
	東郷 知美 理学療法士臨床経験：10 年以上	授業形式	講義・演習
学習目標	妊娠分娩産褥期の助産実践に必要な基本技術とその根拠を理解し、手技を習得する。		

回数/時間・講師	授業内容
菅家 (10 時間)	1) 母乳育児への支援 (1) 母乳育児に関する診断 乳房・乳汁分泌量の変化、児の哺乳行動、哺乳サイン、吸着、吸綴、授乳技術 (2) 正常経過にある褥婦の母乳育児へのケア 母乳分泌促進法・抑制法、乳房のセルフケア、乳房トラブルの予防と対処法 (3) 乳房に異常がある褥婦へのケア 乳頭損傷、乳腺炎 (4) 特別な母乳育児支援を必要とする褥婦への支援 医学的適応により人工乳の補足が必要な児、乳癌の合併 成人 T 細胞白血病ウイルス 1 型<HTLV-1>キャリア (5) 健康に障害のある児をもつ褥婦への支援 児の状態に応じた授乳方法の検討、搾乳
福岡 (6 時間)	2) 助産技術 (演習) (1) 妊娠経過の診断および妊婦健康診査に必要な技術 超音波断層法 (2) 分娩経過の診断、ケアに必要な技術 胎児心拍数モニタリング (3) 会陰切開術、会陰縫合術
東郷 (4 時間)	3) 骨盤ケア (1) ウイメンズヘルス理学療法 (2) 妊娠に伴う筋骨格系の変化 (3) 産後の骨盤、骨盤底筋群のケア (4) 抱っこ姿勢：母、新生児
評価方法	筆記試験 100 点 (菅家 50 点、福岡 30 点、東郷 20 点)
テキスト	助産学講座 6 助産診断・技術学Ⅱ [1] 妊娠期 助産学講座 7 助産診断・技術学Ⅱ [2] 分娩期・産褥期 助産師基礎教育テキスト 6 産褥期のケア／新生児期・乳幼児期のケア 胎児心拍数モニタリング講座

《助産診断・技術学》

授業科目名	助産診断技術演習	単位	1 単位
担当講師	武田 麻美 助産師臨床経験・教育経験：10 年以上 野島 奈明 助産師臨床経験：10 年以上	時間数	30 時間
		時期	4 月～9 月
		授業形式	講義・演習
学習目標	分娩進行に合わせたエビデンスに基づいた安全な分娩介助技術および、出生直後の新生児が胎外生活に適応できるためのケア技術を学び、自立して実践できるための基本技術を習得する。		

回数/時間・講師	授業内容
武田 (18 時間)	<p>1) 分娩介助の意義・原理 正常分娩の娩出機転・産婦の主体性を尊重したケア 分娩台での直接介助の役割</p> <p>2) 分娩介助に伴う技術</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 分娩室の準備、必要物品 (2) 産婦の準備（外陰部消毒の時期と方法・清潔野作成）と介助者の準備（手指消毒の方法） (3) 肛門保護 (4) 会陰保護 (5) 最小周囲径での児頭娩出 (6) 肩甲娩出 (7) 骨盤誘導線に沿った体幹の娩出 (8) 臍帯巻絡の確認 (9) 臍帯結紮及び切断 (10) 新生児の自発呼吸の確認及び蘇生 (11) 適切な方法での胎盤娩出 (12) 胎盤の確認 (13) 軟産道の状態の確認 (14) 子宮収縮状態の確認 (15) 出血状態の確認 (16) 児及び胎児付属物の計測 (17) 分娩に関連する記録の記載 <p>3) 間接介助の役割 ・分娩介助者の補助 ・産婦へのケア</p> <p>4) 正常からの逸脱時の介助技術 ・人工破膜 ・吸引遂娩術の介補 ・児娩出後の呼吸確立 ・胎盤娩出法 ・産道精査</p> <p>(8 時間) 5) 出生直後の新生児の診察・ケアに必要な助産技術</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 出生直後の新生児のケア：胎外環境適応状態の予測と準備 早期母子接触、保温、皮膚乾燥、気道開通、標識装着、点眼、臍帯処置 感染予防、安全確保、適応状態の観察・判断、成熟度の判定 (2) 出生直後の新生児の診察技術 ・視診：全身の観察、アプガースコア、シルバーマンスコア ・触診：頭部、頸部、胸腹部、背部、陰部、四肢、反射 ・計測診：体重、身長、頭囲、胸囲、頭部、バイタルサイン
野島 (4 時間)	<p>6) さまざまな分娩体位と分娩介助法 分娩体位による特徴、分娩時の姿勢による分娩介助</p>
評価方法	実技試験 70 点（武田）、筆記試験 30 点（武田、野島）
テキスト	助産学講座 7 助産診断・技術学Ⅱ [2] 分娩期・産褥期 助産師基礎教育テキスト 5 分娩期の診断とケア、今日の助産

《助産診断・技術学》

授業科目名	周産期ハイリスクケア論		単位	1単位
担当講師	松下 奈美	助産師臨床経験：10年以上	時間数	30時間
	脇田 愛子	助産師臨床経験：10年以上	時期	5月～12月
	井上 裕美	看護師臨床経験：10年以上	授業形式	講義・演習
	起塚 庸	医師臨床経験：10年以上		
学習目標	周産期におけるハイリスク状態の母子と家族をアセスメントし、重症化予防の視点からの支援とその実際を理解する。			

回数/時間・講師	授業内容
松下 (10時間)	1) ハイリスク妊娠・異常妊娠の妊婦のアセスメントと支援 (1) ハイリスク妊娠・異常妊娠のアセスメント 産科合併症、流産、早産、貧血、GDM、HDP 合併症妊娠（婦人科・内分泌・呼吸器・心疾患・腎疾患）、 心理・社会的ハイリスク妊婦（精神疾患合併・若年・高年・未受診） (2) ハイリスク妊婦への助産ケア 切迫流早産、GDM、HDP 妊婦への健康教育（演習） 合併症妊娠での自己管理にむけた支援 予定帝王切開術、不妊治療後妊娠した親へのケア、プレネイタルビジット
(4時間)	2) ハイリスク分娩・異常分娩の産婦のアセスメントと支援 (1) ハイリスク分娩・異常分娩のアセスメント 身体的ハイリスク因子、分娩三要素のリスク、 麻酔分娩（帝王切開術）のアセスメント (2) ハイリスク産婦への助産ケア 微弱陣痛、回旋異常・進入異常、胎児機能不全 常位胎盤早期剥離、産後大出血、急速遂娩（吸引分娩・緊急帝王切開術）
(4時間)	3) ハイリスク産褥・異常産褥の褥婦のアセスメントと支援 (1) 身体的・心理的・社会的ハイリスク・異常因子のアセスメント 妊娠・分娩状況からの逸脱、産後の生活環境、心理状態、サポート (2) ハイリスク褥婦への助産ケア 子宮復古不全、血栓性静脈炎、帝王切開術後 不妊治療後の出産、多胎、母児分離、ボンディング障害、IUFD
脇田 (2時間)	4) 麻酔分娩（無痛分娩）のアセスメントと助産ケア
井上 (8時間)	5) ハイリスク新生児のアセスメントとケア (1) 低出生体重児・早産児のアセスメント 外観、循環器系、血液、免疫系、呼吸器系、消化器系、代謝系、体温調節 (2) ハイリスク児、低出生体重児・早産児のケア 体温管理と体温調節のケア、呼吸管理、皮膚のケア、栄養管理と授乳、感染予防 (3) 発達、親役割獲得への支援 ディベロップメンタルケア（ポジショニング、ハンドリング、タッチケア） 家族への支援（哺乳支援、ファミリーセンタードケア） (4) 退院に向けての支援（退院調整） ハイリスク児へのケア技術、生活環境の調整、社会資源の活用、多職種連携
起塚 (2時間)	6) 虐待予防に関わる支援 (1) 虐待の実態とそのハイリスク因子 (2) 保健・福祉・医療機関での連携と対応
評価方法	筆記試験 100点（松下70点、井上30点）
テキスト	助産学講座6・7・8 助産診断・技術学Ⅱ[1]妊娠期 [2]分娩期・産褥期[3]新生児期・乳幼児期 助産師基礎教育テキスト7 ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア 産婦人科診療ガイドライン産科編2026 助産業務ガイドライン2024 新生児学入門

《助産診断・技術学》

授業科目名	ウイメンズヘルスケア論	単位	1 単位
担当講師	野間 裕子 助産師臨床経験・教育経験：10 年以上	時間数	20 時間
	濱田 恵美子 助産師臨床経験：10 年以上	時期	4 月～9 月
	手島 慶子 薬剤師臨床経験：10 年以上	授業形式	講義
学習目標	リプロダクティブ・ヘルス/ライツの視点から女性の生涯にわたる健康課題に向き合い、女性とその家族を継続的に支援するための基礎知識を理解する。		

回数/時間・講師	授業内容
野間 (12 時間)	1) 女性のライフサイクルと健康課題 (1) 女性を取り巻く現状と課題 (2) ライフサイクル女性の保健 (3) 就業女性に特有な健康課題 ライフプランを考慮した健康、ワークライフバランス (4) 女性への暴力と健康課題 ドメスティックバイオレンス、性暴力、セクシャルハラスメント 2) 生涯における女性のケア (1) ウイメンズヘルスケアとは (2) 思春期・成熟期女性のケア やせ、肥満、初経、月経前不快気分障害(PMDD)、プレコンセプションケア (3) 中高年女性のケア 閉経、更年期障害、脂質異常症・糖尿病、虚血性心疾患、メタボリックシンドローム、萎縮性膀胱炎、排尿障害・尿失禁・過活動膀胱、骨盤臓器脱、骨粗鬆症・フレイル、抑うつ 3) 性の多様性 (1) 生物学的性別 (2) 多様な性と医療、健康支援 (3) 多様な性のあり方と法政策の課題 (4) LGBTQ と家族形成支援
濱田 (4 時間)	4) 周産期女性への心理・社会的支援 (1) メンタルヘルス (2) 社会的ハイリスク妊婦 (3) 産後うつ病 (4) 産褥精神病
手島 (4 時間)	5) 周産期女性と薬物 (1) 妊娠期・分娩期の薬物の作用と母子への影響 薬物の催奇形性、薬物の胎盤透過性、子宮収縮抑制薬 子宮収縮薬、麻酔薬 (2) 授乳期の薬物摂取と母子への影響 薬物の母乳移行、乳汁分泌に影響する薬物
評価方法	筆記試験 100 点 (野間 60 点、濱田 20 点、手島 20 点)
テキスト	助産学講座 5 助産診断・技術学 I 助産学講座 6 助産診断・技術学 II [1] 妊娠期 助産師基礎教育テキスト 2 ウイメンズヘルスケア 助産師基礎教育テキスト 7 ハイリスク妊産婦・新生児へのケア

《助産診断・技術学》

授業科目名	リプロダクティブケア論 (受胎調節実地指導員認定講習)	単位	1 単位
担当講師	野間 裕子 助産師臨床経験・教育経験：10 年以上 城 道久 医師臨床経験・教育経験：10 年以上 手島 慶子 薬剤師臨床経験：10 年以上 大石 有香 助産師臨床経験・教育経験：10 年以上	時間数	40 時間
		時期	4 月～2027 年 1 月
		授業形式	講義・演習 実習
学習目標	リプロダクティブ・ヘルス/ライツの理念に基づく家族計画の意義、基礎知識を理解する。 家族計画の実現に向けた受胎調節指導の基本技術を習得する。		

回数/時間・講師	授業内容 (認定基準指定内容)
野間 (9 時間)	1) 総論 / 9 時間 受胎調節の意義と目的、母体保護と受胎調節、関連概念の整理、母体保護法及び薬事法の解説並びに人工妊娠中絶の現状と母体に及ぼす影響を含む。 (1) 家族計画の意義と目的② (2) 母体保護法(歴史を含む) ② (3) リプロダクティブヘルス・ライツ② (4) 人工妊娠中絶と女性へのケア② (5) 関係法規①
城 (5 時間)	2) 受胎調節の基礎 / 5 時間 (1) 性感染症の現状と予防② (2) 不妊と治療、カップルへの支援② (3) 妊娠の成立①
野間 (11 時間)	3) 受胎調節の指導 / 13 時間 (1) プレコンセプションケア② (2) 避妊法総論(避妊法の選択)② (3) 避妊法各論(バリア法、IUD 他)② (4) 避妊法の集団教育② (5) 受胎調節指導 指導案作成② (6) 受胎調節指導における相談技術① (7) ピル・緊急避妊法(薬理)②
手島 (2 時間)	4) 実習 / 10 時間 (1) 学内実習 / 6 時間 ・ 模型での演習② ・ 個別相談演習：受胎調節(実技試験含む)② ・ 思春期・成熟期女性への健康教育：発表② (2) 臨地実習 / 4 時間 ・ 産後一か月健診での指導(褥婦への実施)④
大石 (10 時間)	
(2 時間)	5) 討議 / 2 時間 (1) 受胎調節の意義、意見交換① (2) 受胎調節指導を助産師が行う意義①
(1 時間)	6) 考査 / 1 時間 (1) 筆記試験①
科目評価方法	学内実習 20 点、討議 10 点、筆記試験 (認定試験) 70 点
受胎調節実地指導員認定要件	<ul style="list-style-type: none"> すべての授業 (40 時間) を受講すること 臨地実習での受胎調節指導技術チェック表 (2 例) の提出があること 当該科目の単位が認定されていること 受胎調節実地指導員認定試験において 8 割以上の点数を取得すること
テキスト	受胎調節指導用テキスト 助産師基礎教育テキスト 2 ウィメンズヘルスケア 助産学講座 2 母子の基礎科学 助産学講座 3 母子の健康科学 助産学講座 5 助産診断技術学 I 助産学講座 7 助産診断・技術学 II [2] 分娩期・産褥期

《助産診断・技術学》

授業科目名	健康教育論	単位	1 単位
担当講師	大石 有香 助産師臨床経験・教育経験：10 年以上	時間数	15 時間
		時期	4 月～5 月
		授業形式	講義・演習
学習目標	妊産褥婦とその家族、ライフサイクル各期の対象への健康教育の実践に必要な理論や原理、教育技術の基礎を理解する。		

回数/時間・講師	授業内容
大石 (4 時間)	1) 相談・教育の基礎 <ul style="list-style-type: none"> ・対象理解と成人教育 ・問題解決プロセス ・セルフケア理論 ・学習の理論 ・女性を中心としたケア ・家族を中心としたケア ・エンパワメント ・意思決定支援
(2 時間)	2) 相談・教育の過程 <ul style="list-style-type: none"> (1) 相談 <ul style="list-style-type: none"> ・学習者のアセスメント ・実施 ・評価 ・改善 (2) 教育 <ul style="list-style-type: none"> ・学習者のアセスメント ・実施 ・評価 ・改善
(4 時間)	3) 相談・教育の技術 <ul style="list-style-type: none"> (1) 相談技術の基本 <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション ・アサーティブネスとアサーション ・カウンセリング ・ネゴシエーション (2) 教育技術の基本 <ul style="list-style-type: none"> ・教育方法 ・教材、媒体のつくり方 (パワーポイント、リーフレット) ・ICT 教材
(5 時間)	4) 相談・教育の方法 <ul style="list-style-type: none"> ・個別相談 ・家庭訪問 ・仲間づくり ・討議法 ・双方向教育 ・学びの場づくり ・集団教育 ・電話相談 ・ピアサポート ・グループワーク ・アクティブラーニング ・ICT 教育
評価方法	筆記試験 100 点
テキスト	助産学講座 5 助産診断・技術学 I

《助産診断・技術学》

授業科目名	健康教育技術	単位	1 単位
担当講師	大石 有香 助産師臨床経験・教育経験：10 年以上	時間数	30 時間
		時期	4 月～9 月
		授業形式	講義・演習
学習目標	妊産褥婦とその家族、ライフサイクル各期の対象への個人、集団の特徴に応じた教育実践へ向けた、健康教育の基本技術を習得する。		

回数/時間・講師	授業内容
大石 (2 時間)	1) 相談・教育における計画立案の実際 (1) 企画書作成 ・更年期への教育活動の概要
(6 時間)	(2) 教育案作成 エビデンスに基づいた教育内容の精選、構成 ・妊娠期、産褥期のセルフケア教育 ・出産準備教育 ・親準備教育 ・育児教育
(2 時間)	(3) 教材・媒体作成 (教育案に合わせた教材・媒体作成) ・妊娠糖尿病の予防と生活指導 ・妊娠高血圧症候群の予防と生活指導
(8 時間)	2) 相談・教育の実際 (1) 個別相談技術 (実施、評価、改善) ・分娩開始兆候と入院の時期 ・妊娠糖尿病の予防と生活指導 ・妊娠高血圧症候群の予防と生活指導
(8 時間)	(2) 集団教育技術 (実施、評価、改善) ・子育て講座における教育技術
(4 時間)	3) 妊娠期・産褥期・子育て期の対象への相談・教育の実際 ・妊娠期、産褥期のセルフケア教育 ・出産準備教育 ・親準備教育 ・育児教育
評価方法	実技試験 75 点 (個別相談・集団教育技術) 、 教育案 25 点
テキスト	助産学講座 5 助産診断・技術学 I

《地域母子保健》

授業科目名	地域母子保健	単位	1 単位
担当講師	伊藤 雅子 助産師臨床経験：10 年以上	時間数	15 時間
		時期	7 月～9 月
		授業形式	講義
学習目標	多様な背景をもつ妊産婦や母子のニーズに対応した母子保健サービスの提供を中心として、多職種と連携・協働しながら地域で学齢期から子育て世代を包括的に支援するための基礎知識を理解する。		

回数/時間・講師	授業内容
伊藤 (2 時間)	1) 地域母子保健活動の基本 (1) 意義：目的・目標、地域包括ケアシステム (2) 基盤：多職種・関係機関との連携、地域ニーズの把握 (3) 地域の特徴をふまえた妊産婦、乳幼児に関する母子保健事業 産前産後ケア事業、育児支援 妊産婦の訪問、新生児訪問指導、相談活動 出産準備教育、メンタルヘルスケア、性教育
(2 時間)	2) 母子保健の課題 育児支援の必要性、経済格差・医療の地域格差
(6 時間)	3) 地域母子保健活動の展開 (1) 母子保健活動の場 助産所、診療所・病院、周産期医療センター 市町村保健センター、保健所 子育て世代（母子健康）包括支援センター、職能団体 (2) 地域組織活動 地域組織活動の意義・目的・実際：地域活動のネットワークづくり 組織活動における助産師の役割：民間組織・自助グループとの連携等 (3) 地域子育て支援活動 ・子育て家庭の現状、妊娠期からの切れ目ない支援 子育て支援の意義と役割、多職種連携によるサポート体制 ・ハイリスク妊婦・母子への支援の現状と助産師の役割 特定妊婦、若年・高齢妊婦、未受診者、暴力被害者、精神疾患合併妊婦 等 児童虐待、医療的ケア児 等 ・在日外国人、海外在住日本人の母子保健
(2 時間)	4) 学校での母子保健活動 学童期、思春期 成熟期 小学校、中学校、高等学校、大学、専修学校等
(3 時間)	5) 災害に関する妊婦・母子への支援活動 平時の災害への備えと訓練、災害時の初期対応 被災した妊産婦・母子・女性の特徴と支援 妊産婦・母子・女性への災害に対する教育
評価方法	筆記試験 100 点
テキスト	助産学講座 9 地域母子保健・国際母子保健

《地域母子保健》

授業科目名	地域助産ケア論		単位	1 単位
担当講師	武田 麻美	助産師臨床経験・教育経験：10 年以上	時間数	45 時間
	増本 綾子	助産師臨床経験・教育経験：10 年以上	時期	4 月～2027 年 1 月
			授業形式	演習
学習目標	女性・子ども・家族のライフステージの健康問題に対応したプレコンセプションケア、マタニティサイクルケアの基本を学び、地域であらゆる対象が健康な生活を送るためのケア・健康教育実践プロセスを習得する。			

回数/時間・講師	授業内容
武田 (24 時間)	1) 妊娠期・子育て期の健康教育の実際 (1) 妊娠期・子育て期の現状とニーズ (2) 健康教育内容の抽出と選定 妊娠期：妊娠中の母体・胎児の変化、妊娠中の健康生活、出産・子育て準備 親役割準備、社会資源の活用等 子育て期：母子の身体的・心理的特徴と生活、 (3) 子育て講座の企画・評価 企画書・教育案・口頭原稿・媒体作成、リハーサル 評価（企画プロセス・実施）
増本 (4 時間)	2) 子育て期の家庭訪問 (1) 家庭訪問でのケアと方法 (2) 訪問計画書の作成 (3) 訪問シミュレーション
武田 (1 時間)	(4) 継続事例実習における家庭訪問のリハーサル
武田 (10 時間)	3) 学童期の健康教育の実際 (1) 学童期の現状とニーズ (2) 健康教育内容の抽出と選定 生命の誕生、多様な性、プライベートゾーン (3) 学童期の出前授業企画・評価 企画書・教育案・口頭原稿・媒体作成、リハーサル 評価（企画プロセス・実施）
増本 (6 時間)	4) 更年期の健康教育の実際 (1) 更年期の現状とニーズに応じた教育案、媒体の作成 (2) 健康教育実施（演習）
評価方法	健康教育企画・プロセス 100 点 (妊娠期・子育て期 40 点、学童期 40 点、更年期 20 点)
テキスト	助産学講座 5 助産診断・技術学 I 助産学講座 9 地域母子保健・国際母子保健

《助産管理》

授業科目名	助産管理学		単位	1 単位
担当講師	大石 有香	助産師臨床経験・教育経験：10 年以上	時間数	15 時間
	川又 睦子	助産師臨床経験：10 年以上	時期	5 月～9 月
	橋本 真理	助産師臨床経験：10 年以上	授業形式	講義
学習目標	助産管理の概念に基づいた助産業務管理の特性と過程、および業務の場に応じた管理の実際からチーム医療での役割と基本姿勢を理解する。			

回数/時間・講師	授業内容
大石 (7 時間)	1) 助産管理の基本と助産業務管理 (1) 助産管理の基本概念 組織における助産師の役割と助産管理体制 助産の質の管理と保証 (2) 助産業務管理の特性と過程 管理目標の設定、業務の分析、業務計画の策定、業務の評価 (3) 助産業務管理と医療経済 医療保険制度、診療報酬、分娩費用、健康診査に関わる費用
川又 (4 時間)	2) 病院・診療所での助産業務管理 (1) 産科棟の助産業務管理 産科棟の特性 (周産期病棟、混合病棟) 人事・物品・経済・情報・時間の管理、人材育成 (クリニカルラダー) 看護体制、文書・記録の管理と開示、診療情報提供、 他部門・他機関との連携、協調、地域との連携、業務の質の管理 (2) 産婦人科外来、院内助産・助産外来
橋本 (4 時間)	3) 助産所での助産業務管理 (1) 関係法規に基づく管理 助産所の定義、助産所の開設者と管理者 助産所の管理者の義務、助産所の構造と設備、助産所の広告 (2) 助産所の管理・運営の基本 嘱託医及び嘱託医療機関との連携・協働 救急時の搬送と搬送基準、環境・設備・備品の整備 地域医療、行政との連携・協働 助産所での分娩の適応基準、自宅分娩の適応と可否の判断
評価方法	筆記試験 100 点 (大石 70 点、川又 15 点、橋本 15 点)
テキスト	助産学講座 10 助産管理 助産師業務要覧 [I 基礎編] 助産師業務要覧 [II 実践編] 助産業務ガイドライン 2024

《助産管理》

授業科目名	周産期リスクマネジメント	単位	1 単位
担当講師	大藪 裕子 助産師臨床経験：10 年以上	時間数	15 時間
		時期	5 月～9 月
		授業形式	講義
学習目標	周産期医療の質と安全を保障するためのシステムおよびチーム医療における助産師の役割を理解し、リスクマネジメントの実際から周産期の医療安全のあり方を考察する。		

回数/時間・講師	授業内容
大藪 (15 時間)	<p>1) 周産期医療システムとリスクマネジメント</p> <p>(1) 周産期医療システム化と連携の構築 周産期医療機関の機能と役割 周産期医療の集約化と連携 周産期医療基盤の整備 多職種の連携・協働</p> <p>(2) 周産期医療のオープンシステム・セミオープンシステム 地域事情に応じた周産期医療連携システムの構築 開業助産師と周産期センターとのオープンシステムモデル事業と課題</p> <p>(3) 周産期搬送システム 周産期医療ネットワーク 都道府県の役割 周産期医療対策の財源措置 周産期搬送システムの現状と課題</p> <p>2) 助産業務におけるリスクマネジメント</p> <p>(1) 産科におけるリスクマネジメント コミュニケーション (SBAR の実際) 院内における災害対策 産科医療補償制度</p> <p>(2) 周産期における安全対策 (事例) 医療事故の原因、救急体制、法的責務 傷害等の対応と損害賠償保険 インシデント報告書作成：原因の分析と対策の検討</p> <p>(3) 周産期における感染リスクマネジメント 感染予防・管理、院内感染、薬剤耐性 (AMR)</p>
評価方法	筆記試験 100 点
テキスト	助産師基礎教育テキスト3 助産サービス管理 助産師基礎教育テキスト7 ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア 助産学講座 10 助産管理